

## 里親の皆さんには一年間お世話になりました！

今年も余すところ1か月を切りました。時の流れが年々早くなっているのをつくづく実感するこの頃です。

里親の皆さんには、1年間大変お世話になりました。今年の異常な猛暑にも関わらず、里親の皆さんの熱心な手入れのお陰でフジバカマは綺麗な花を咲かせてくれました。

しかし、猛暑の影響でアサギマダラの飛来数は極端に少なく、開園以来最低の飛来数に終わりました。これは、宮田村のアサギマダラの里に限ったことではなさそうで、全国的にも同じ状況のようです。

フェスティバルは快晴に恵まれましたが、肝心のアサギマダラは数えるほどしか飛来せず、カメラマンの数のほうが圧倒的に多い有様でした。あまりの少なさに、マーケティング講座も行えませんでした。

今年、アサギマダラの里でのマーケティング数は186頭で、昨年も少ない(435頭)と感じていましたが、それに比べても4割程度、非常に多かった一昨年(2412頭)比では8%でした。再捕獲は現在3頭で、一昨年の71頭と比べるとその少なさが際立ちます。

今後も温暖化は収まりそうもなく、沸騰とまで言われる状況が続くと、アサギマダラの里もピンチです！

11月末にフジバカマの焼却を行いました。

今年は順調に生育し、一時「トウホクヤマメイガ」の発生があり心配しましたが、里親の加藤さんが熱心に被害花の摘み取りをして頂いたお陰で、大きな被害に至りませんでした。 フジバカマ刈り取り



刈り取ったフジバカマの焼却

## 第 8 回全国アサギマダラサミット & フェスティバル開催

9月9日サミット、17日フェスティバルを開催しました。サミットは「生物多様性と里山」と題して東京大学大学院教授の宮下直さんに基調講演をしていただきました。

アサギマダラの里を含む「村民憩いの蝶の森」は、宮田村では貴重な里山にあり、今里山の役割が注目されています。

実践講座として、信州アサギマダラの会の桜井正人さんにマーキング調査の意義と魅力の講演をしていただきました。

桜井さんには、アサギマダラの里開設からお世話になり、フェスティバルでもマーキング講座を受け持っていました。

宮下教授による基調講演



桜井さんのマーキング講演

フェスティバルは天候には恵まれましたが、猛暑の影響が続いていたのか肝心のアサギマダラがほとんど姿を見せず、写真撮影会も1頭の蝶を多くのカメラマンが追いかける状態でした。

マーキング講座に至っては、マーキングする蝶がないために講座自体ができない有様でした。来年はこんな状態が二度と起こらないように祈るだけです。

第2回 ミヤマシジミ観察会

## ミヤマシジミ観察会

昨年8月に村民憩いの蝶の森事業の中で実施した、蝶の生息調査で確認された「ミヤマシジミ」の観察会を本年度2回開催しました。

2回目はアサギマダラフェスに合わせて行い、多くの方が観察に参加されました。

生息地は、長野県が管理する施設内にあるため、一般の方が自由に入出入りすることができないことから保護されて来ました。

ミヤマシジミは国の絶滅危惧 1B 類に指定されるほど減少していますが、大久保地区のミヤマシジミは乱舞という言葉が似あうほど沢山飛んでいます。

ミヤマシジミは年に3回ほど発生しますが、食草である「コマツナギ」の保護・管理がこれからの大きな課題となると思います。

生息地は県の施設内ですが、村としてもミヤマシジミの保護に積極的に関わっていきます。



## 里始まって以来、初めてのイノシシ被害発生！

連日猛暑が続き、加えて雨が降らない状態が続いていましたが、15日に台風7号の影響か、少しまとまった雨が降りました。ほっとしています。

台風の雨を期待するのは、災害に見舞われているみなさんには不謹慎ですが、それほど雨が欲しいのが実情で、フジバカマが大分弱ってきていました。

また、一番東の通りの一区画がイノシシに掘り起こされて、フジバカマの苗が全滅してしまいました。

今までこれ程ひどい被害はなかったので、現地を見た時には目を疑いました。東側の土地も重機が起こした程掘り起こされており、イノシシの捕獲を猟友会へ依頼しました。

毎年色々な難問が発生します。



## アサギマダラサミット&フェス in 宮田開催

今年も、9月に「第8回アサギマダラサミット&フェス」を開催します。



昨年のフェスティバルの様子

日時は、サミットが9月9日（土）  
午後1時30分より村民会館2階で。  
フェスティバルが同17日（日）午前9時  
よりアサギマダラの里です。

サミットでは、講演を中心に行い、  
「生物多様性と里山」と題して、東京大学  
大学院教授 宮下直さんに基調講演を。ア  
サギマダラの「マーキング調査の意義と魅  
力」と題して信州アサギマダラの会 櫻井  
正人さんに講演をいただきます。 チラシ  
参照

## 雑草が目立って来ました！除草をお願いします。

雨が降らない割に雑草の伸びが良く、特にヒメジオンがフジバカマより高く成長していて大変目立っています。その他に、ヤブガラシやワルナスビも勢力を伸ばしています。

暑い日が続く中での大変な作業ですが、アサギマダラの飛来前に除草をお願いします。



## 寺沢林道でアサギマダラが繁殖中

アサギマダラの里で、北上中のアサギマダラを見る機会がなくなった代わりに、寺沢林道でアサギマダラの卵が沢山確認されています。

卵は6月初旬頃から見られるようになり、寺沢林道の6km付近から宮田高原にかけてイケマに沢山産み付けられています。

写真は6月13日に寺沢で採取し、役場ロビーで飼育しているアサギマダラの3令幼虫です。

左の写真は寺沢のイケマに産み付けられた卵です。

卵から孵化が約7日、幼虫になって4回脱皮しますが、約3日で1回

脱皮するので、5令幼虫までに12日、蛹の前の5令幼虫期は約7日で、最後の脱皮をして蛹になります。蛹になって約20日で成虫へと変身します。

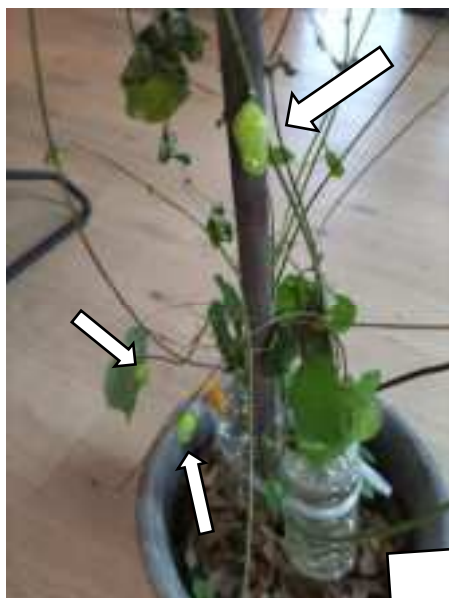
蝶は、最も進化した「完全変態」で幼虫から蛹の段階を経て成虫へと劇的な変化を遂げます。

蛹の中では、幼虫の時には必要だった器官で成虫では不要な器官がなくなり、幼虫の時には見えなかった成虫に必要な器官が代わって成長しています。

これが蛹の中で同時に起こるため、蛹の中はどろどろのクリーム状態になっています。これが蛹の後半になると各器官が完成して蝶の幼虫の姿に生まれ変わります。

現在、4頭が蛹になって羽化の時を待っています。⇨ ※1頭落ちていますが、羽化までには、接着剤でくっつけます。

寺沢林道や宮田高原でも、間もなく次世代のアサギマダラが見られるようになります。



## 里親説明会&初作業お疲れさまでした！

4月16日（日）に本年度の里親説明会と初作業を行いました。

前日の雨の影響で、通路に水たまりが残るなど、作業にはあまり条件が良くなかったにも関わらず、約50人もの里親の皆さんに集まっていただきました。

里親さんの総数は67人・団体と変わりませんが、今年は、新たに3個人2団体の新里親さんを迎えました。

温暖化の影響か、年々春の訪れが早くなり、雑草の伸びが進んでいる気がします。

里親のみなさんには、雑草の伸びが早く作業が大変だと思いますが、今年1年間よろしくお願いします。



里親さんの集合風景

## 今年のアサギマダラの北上情報

3月下旬にアサギマダラの羽化が始まり、北上する個体が日に日に増えてきているようですが、屋久島でのマーキング情報では、天候が良くないことも



2020年5月の初飛来

多少は影響しているかもしれませんが、それでも例年に比べるとだいぶ少ない数だそうです。

数字的には（マーキング数 4/30日現在）

今年は、22年の39% 21年の35% 20年の88% 19年の44%だそうです。

例年5月10日前後にアサギマダラの里へ姿を見せますので楽しみにしててください。

## フジバカマが芽吹きました

桜の花の満開になったニュースがあちらこちらから伝えられ、私たちの周りでも3月中に満開になった桜の木を見かけました。例年よりかなり早い開花です。

気温の上昇につられて、フジバカマの新芽が土から顔を出してきました。

昨年西側の6畝に土盛りをしました。その畝からも少しですが新しい芽が出始めています。

フジバカマだけではなく雑草も一緒に伸びてきています。

つきましては、下記により里親説明会と新年度初作業を行いますのでご参加下さい。



### ◇2023 年度里親説明会及び新年度初作業

- 1 日 時 4月16日(日) 午前9時～ 約1時間程度
- 2 場 所 アサギマダラの里
- 3 持ち物 草かき(小さいほうが作業しやすいと思います)  
箕(取った草を運ぶもの)など

※ 雨天の場合は中止しますので、昨年同様 1年間作業をお願いします。

アサギマダラも九州、四国地方で成虫が飛び始めました。間もなく北上をはじめて5月中旬にはアサギマダラの里にも姿を現すものと期待しています。

## 新しい遊歩道などが整備されました



22年度に県林業コンサルタント協会の助成金を受け、「村民憩いの蝶の森」としてタカノ(株)の協力をいただき、アサギマダラの里の西側の社有林に遊歩道やビオトープなどを整備しました。

これから新緑の季節になりますので、散策を楽しんでください。

新しくできた遊歩道と案内看板